

無限七星、花凜水を使った実験報告

無限七星、花凜水の材料は活量調質水で、それぞれ目的に合わせて作られた製品です。

この無限七星ボトルウォーターは、アミノ基を水に溶解させた清涼飲料水です。

A. いちご農家にて、

- ① 今後は花凜水を使い、水を吸いあげる性質を使い肥料などの栄養を植物により多く吸収させる実験をしていく予定
- ② 花凜水による害虫、菌に対する死滅実験
- ③ さしめ、挿し木の実験

B. 無限七星による鮮度保持実験

3-4日鮮度保持期間を延ばすことが出来た。

A. いちご農家

現在、農家さんで困っている事の多くが大きく分けて3つあります。

まず①天候、地球温暖化も含まれます。次に②害虫、菌、これは農家により様々な害虫、菌が存在しています。最後に③収穫量の問題、今回のいちご農家さんは年によって変わりますが、最大で50%の振れ幅があるとされています。

① 天候、温暖化について

まだ実験はできていない。現在はミストなどで気温を操作しつつ、水を上げる回数を増やして調整しています。

協力してくれている農家さんは1日に2tの水を使用しています。（ミストは含まれない）今後は花凜水を使い、水を吸いあげる性質を使い肥料などの栄養を植物により多く吸収させる実験をしていく予定です。

② 害虫、菌

害虫に関してはスリップス、ハダニ、油虫を実験しました。

死滅するかどうかではスリップスは死にませんでした。

餓死や溺死の可能性が高いが死ぬ個体もいた。

現在は対照実験中。

次にハダニ。ハダニの方は死滅が確認できています。

死滅の主な要因としては、アミノ基が詰まり窒息したと考える。

現在は復唱実験中。

最後に油虫。死滅は確認できませんでした。

嫌がる様子は見られたので今後は種類を変えて実験する予定。

菌についてはうどんこ病で実験しました。

一番菌が繁殖しやすい多湿高温の中で実験した所、死滅が確認できました。また広がりもなかったため制菌効果もあると考えられます。

ただし、普通に水を与える事により花凜水が流れ落ちる可能性がある。

菌自体、空気中を常に漂っているため花凜水が流れた所にはまた菌がつく可能性がある。

現在復唱実験中。

③ 収穫量について

収穫量は年によって異なりますが+25% - 25%の計50%の振れ幅があります。

土壌や苗自体が良くなれば自然と収穫量は増加すると思います。

土壌は善玉菌と悪玉菌、苗は挿し木、挿し芽、ランナーなど詳しくは別紙にて。

今までの実験のやり方と今後の実験方法

さしめ、さしきの実験は花凜水を一日一回投与です。

朝の10時半に投与しています。

理由としては、苗が一番元気になる一時間程度前が効果があるのではないかと判断しました。

根付きに関してはいい結果が出たため、今後も投与していく予定です。

次に途中から実験し始めたものがあります。

この実験は完璧に根付いてからの投与になります。

投与に関しては月に一回（29.53日の月齢での計算で真月に）で時間は10時半です。

狙いとしてはさしめ、さしきだけではなく、ランナーで育てている所にも途中から投与できるのかと単純に収穫量が増えるのかを見ます。

一か月に一回の投与で済むのであればランニングコストも良く、農家さん側からしても非常に使いやすくなると思います。

後は農家さんの協力なので検査に出しているフザリウムの検査は10月中には出る予定です。

根付きに関して

7/10から花凜水を使って挿し芽、挿し木で実験している苗と通常の水を使った苗の対照実験になります。

いい根付きとは根ががっちり土を掴んだ状態を指します。

苗を一つずつ取り出してそこから大きなプランターに移し替えるのですがその時にしっかりと根付いてないと持ち上げたときに根からポロポロと土を放してしまいます。

根付きがいいという事は苗自体が強いということなので、収穫量も自然と増えると予想しています。

活着率は90%を超えるか、もしくは80%を三回の復唱実験を成功したら使う意味はありと判断されます。

前年度までの平均活着率は約70%です。

活着率が上がればランナーを使っている農家さんも手を出しやすくなるので、利用価値は上がります。

ちなみにランナーとは親苗から伸びた弦をそのまま別のプランターに挿し育てる方法なのですが親苗からそのまま挿しているのも場所をとります

それでも使われている理由は活着率が平均約80%を超えているので農家さんが安心しているのが現状です。

実験結果としては、

10倍 40/40 苗

100倍 39/40 苗

1000倍 39/40 苗

水だけで実験したものは全体で75%でした。

実験結果としては、今回の実験では全体の苗の根付き非常に良く（画像あり）活着率もほぼ10割という結果になりました。

結果的にはすごくいい結果なのですが、今後は実験する苗の検体数を増やし復唱実験をする必要があるという判断になりました。

